

当社のSAFに関する取組みについて

2024年1月31日
太陽石油株式会社

1. 当社におけるSAFの取組み

① 水素菌を用いたSAF製造に関する共同研究契約の締結（2021年11月）

株式会社CO2資源化研究所と共同で水素と二酸化炭素を原料としたSAF製造の実証化に向けた技術開発を実施中。

② 森林資源を活用したグリーンリファイナリー事業の共同検討を開始（2021年12月）

日揮ホールディングス株式会社と共同で、未利用森林資源の収集から、木質バイオマスの分解油化によるバイオ原油の製造、バイオ原油を原料としたSAF等のバイオ製品の製造に至るまでの一連のサプライチェーンの構築に向けた検討を実施中。

③ 国産SAFの商用化および普及・拡大に取り組む有志団体「ACT FOR SKY」に加盟（2022年3月）

④ 内閣府沖縄総合事務局の「令和5年度沖縄型クリーンエネルギー導入促進調査事業」に採択 (2023年4月)

沖縄県および近隣諸国におけるSAF需要調査や大型船によるエタノール輸入について委託調査事業を実施中。

⑤ 沖縄におけるSAF/リニューアブルディーゼル製造事業の事業化検討を開始（2023年7月）

当社グループ会社である南西石油株式会社が所有する設備・遊休地を活用し、三井物産株式会社とSAFおよびリニューアブルディーゼル(RD)の大規模製造の事業化検討を開始。

2. 南西石油(沖縄県)におけるSAF製造に向けた取組み①

国産SAF製造に向けた取組み状況

建設地 南西石油株式会社(沖縄県中頭郡西原町)

生産量 最大22万KL/年(ニートSAF+RD)

原料 エタノール

稼働開始時期 2028年度末



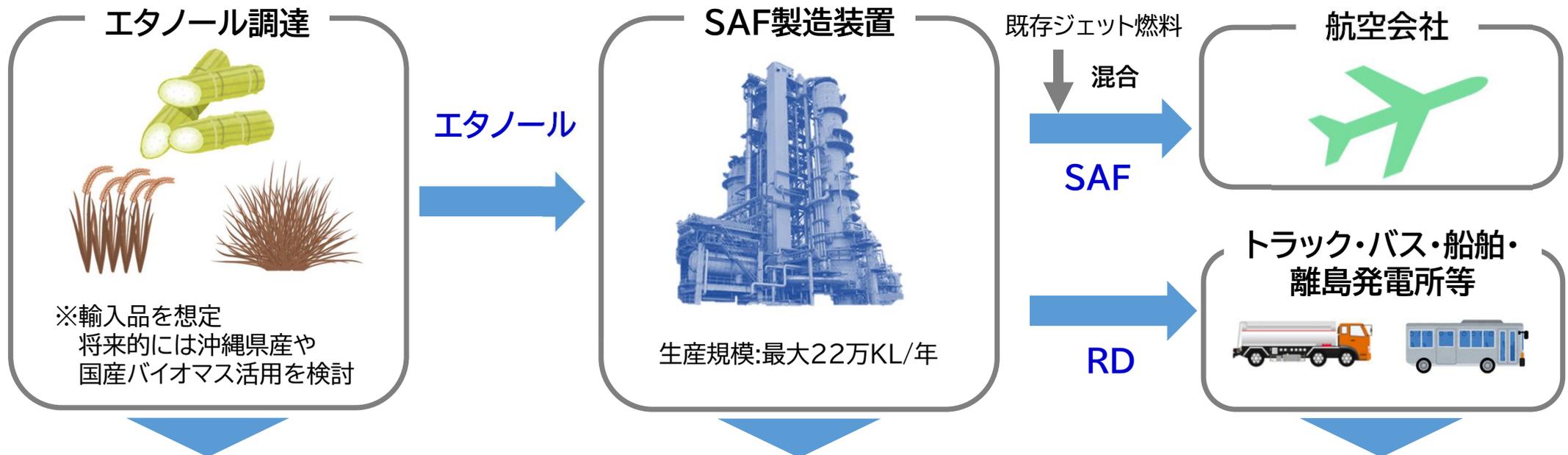
赤枠内:本事業における建設候補地

<南西石油の特徴>

- ・元製油所である南西石油の棧橋および貯蔵設備を活用することにより、大型タンカーによる輸入によるコスト競争力のある原料調達が可能。
- ・広大な遊休地を有しており、将来の拡張性が高い。
- ・沖縄県は東アジアの中心に位置しており、国内のみならず、アジア近隣諸国への輸出が可能なロケーション。

3. 南西石油(沖縄県)におけるSAF製造に向けた取組み②

- ・ 沖縄県内におけるCO2排出量の内、航空機やトラック・バス・船舶等の運輸部門に占める割合が最も大きく、2050年カーボンニュートラルの実現に向け、CO2排出量の大幅削減が可能なSAFやRDは重要な燃料。
- ・ 本事業は沖縄県のCO2排出量削減に加え、SAF製造事業による直接雇用の創出やメンテナンス等を通じた間接雇用の創出のみならず、環境に配慮したサステナブルツーリズムによる観光産業への貢献、将来的な沖縄県内産バイオマスの活用による新たな産業創出等、沖縄県全体への経済波及・振興効果が期待され、産業競争力強化に資する取組み。



・ 将来的な原料国産化
⇒ エネルギーセキュリティ向上
・ 農業との連携や新たな産業育成による
沖縄県への経済波及・振興

・ SAF製造事業による新たな雇用
・ メンテナンス等の製造業の裾野の広がり
国内・海外への販売

・ 消費者への脱炭素取組みへ貢献
・ 観光など関連産業の競争力強化
(サステナブルツーリズム等)

2023年11月27日 当社プレスリリースより

西村康稔経済産業大臣が、11月25日(土)に当社グループ会社である南西石油株式会社を訪問されました。

当社と南西石油はSAF等製造の事業化検討を実施しており、このたび西村大臣はSAF製造予定地を視察されたほか、事業の進捗状況の確認や、今後の展望等について意見交換を実施いたしました。

西村大臣からは、南西石油は沖縄県民への石油製品供給拠点として欠かせない重要な位置づけにあるといったお言葉をいただきました。

また、当社グループが取り組むSAF等製造事業の検討は、世界の気候変動対応のなかにおけるサステナブルな燃料製造への挑戦として歓迎するといったお言葉もありました。沖縄は、アジアを視野に置いたSAFの輸出拠点となり得る点や、防災上の観点からも、本州から離れた製造拠点になり得る点から、その立地条件にも高いご関心をいただきました。



左から間庭執行役員、石川執行役員、山本専務執行役員、西村経済産業大臣、村上南西石油社長、當銘南西石油取締役



SAF製造予定地でのご視察の様子



SAF製造予定地でのご視察の様子